

授業概要

和歌は古典文学の一ジャンルだが、日本文化全体の基礎をなす点できわめて重要な文芸と言える。この授業では、和歌史の流れを追いながら、各時代の和歌を読解し、それぞれ詠法にどんな特徴があるのかを考える。また、散文作品に見える和歌や、工芸品・服飾などに意匠として用いられる和歌についても言及し、日本文化における〈和歌〉の意味について総合的に講義する。

授業計画

第1回	ガイダンス	和歌のはじまり
第2回	『万葉集』の歌	
第3回	『古今集』の歌①	漢詩文全盛時代からの離陸
第4回	『古今集』の歌②	機知と修辞
第5回	生活を美しくいどる和歌	屏風歌と贈答歌
第6回	『源氏物語』の和歌	引歌表現の機能
第7回	題詠の発生	和歌史の曲がり角
第8回	歌合と定数歌	〈文芸詩〉としての和歌
第9回	数寄者たちの系譜	歌学書の関心事
第10回	敗者たちの和歌	散文作品に取り込まれる和歌
第11回	地下人たちの工夫	〈趣向〉とは何か
第12回	新しい和歌の世界①	藤原俊成の達成
第13回	新しい和歌の世界②	新古今時代
第14回	新しい和歌の世界③	京極派和歌
第15回	〈意匠〉としての和歌	
第16回	筆記試験	

到達目標

- ・和歌を読解するための基本的な知識や方法を身につける。
- ・日本文化において、和歌がどのような意味を持ってきたのかについて理解を深める。

履修上の注意

和歌文学や古典文法についての知識は必要ありませんが、興味と関心だけは必ず持ってください。授業時に指名されたら、必ず自分の考えを述べること。

予習・復習

授業のノートをきちんと取り復習しないと、小テスト（記述式、所要時間 40 分程度）をクリアできない。

評価方法

定期試験（65%）と小テスト（35%）を総合して判定する。

テキスト

プリント（A3）を配布する。